



## 【ものづくり 人づくり 地域づくり】

# 生産を支えるのは 組合員の声



岩瀬牧場・卓子さんから  
組合員のみなさんへ

朝晩寒さを感じる季節にはりましか、皆様お元  
 気にお過ごしですか。  
 父が亡くなった折は、組合員の皆様から沢山の  
 励ましやメッセージをいただき、本当にありがとうございました。  
 私は父が作った豚を失くすという思いから、  
 家業を継ぎまゐるが、父の病気が見つかり別れま  
 一ヶ月しか経たないうちに、仕事を続けることの大変さや  
 不安にも気が付かなくなりました。父は生前、  
 豚を育てる事を全面的に任せてくれていました。  
 たくはる直前、今が一番美味しいお肉のはずだと  
 初めて私の育て方を認めてくれました。  
 先日、生協祭りにお邪魔した際、「いつも美味  
 しいお肉をありがとうございます。これからも食べ続け  
 ることを応援しますから頑張りなさい。生産者にとっ  
 て一番うれしく勇気づけられるお言葉、初対面の組  
 合員の方から直接いただき、私とスタッフの小宮とで  
 とても感動しました。私が豚を育てている気持ちに  
 寄り添うようにご理解いただけたい事を実感でき  
 本当に幸いです。

これから安全な美味しなお肉をお届け出来  
 ますよう努力致します。どうぞよろしくお願致します。  
 最後に、大石さん、伊藤さん、井上さん、はじめ、  
 常総生協のスタッフの皆様、暖かいお礼、本当に  
 感謝して居ります。ありがとうございます。

岩瀬牧場  
卓子



生協まつりで岩瀬さんの豚肉の串焼きをするスタッフの小宮さん



40周年式典であいさつする卓子さん。少し緊張がみ。左に牧場で共に働く生協の井上くん

○自然分娩



寒いと身を寄せ合って暖めあう子豚たち（分娩室）



母豚の横に一直線に整列しておっぱいを待つ



豚舎の前の広場をゆっくり散歩する妊娠中の母豚

○種豚の交配から母豚一貫生産

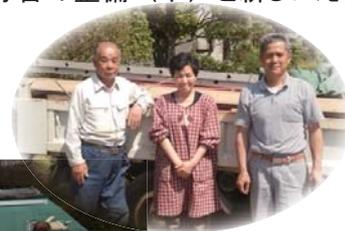


生協から贈られた種豚の原種（3種♂♀計10頭）



生協組合員の山中さんの協力で豚舎の整備（下）と新しいえさ箱（上）

○豚糞堆肥を使った有畜自給農園に向けた試験栽培



○豚舎の屋根吹き替え整備完了

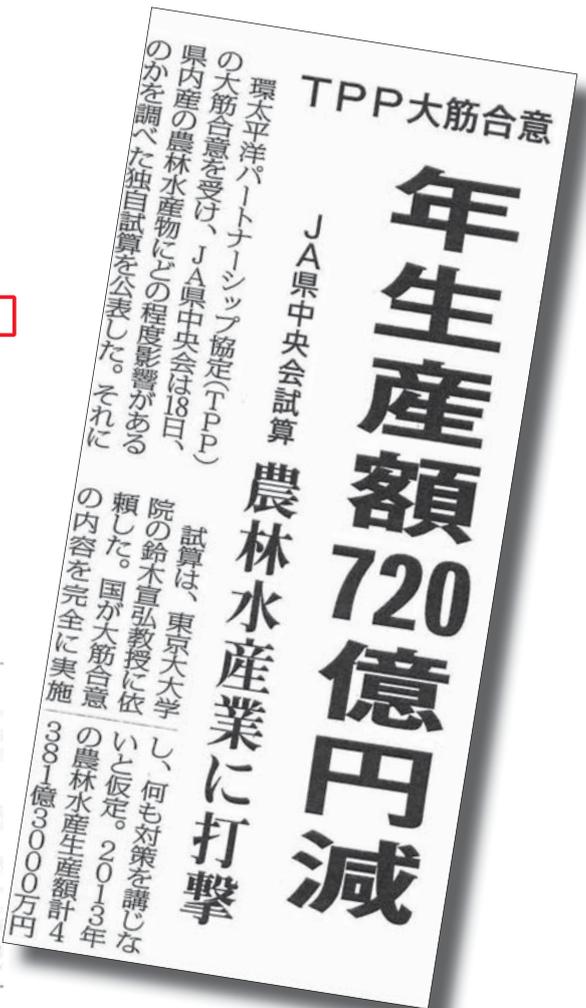


TPP で茨城県内 養豚は60%減（東京大学鈴木宣弘教授試算）

JA 県中央会による  
TPP の影響試算結果

2013年	生産額 (億円)	減少額 (億円)	減少率 (%)
農業生産額	4356	-	-
試算対象農畜産物合計	4152	649.1	15.63
主な例			
コメ	875	58.63	6.7
豚	375	224.7	59.92
肉用牛	129	40.12	31.3
生乳	156	21.37	13.7
鶏卵	402	126.93	31.57
レタス	155	16.41	10.59
ハクサイ	135	5.33	3.95
ネギ	131	13.65	10.42
試算対象農林水産物合計	4381.3	720.5	16.44

この日、水戸市梅香  
主要8品目では、豚への影響が最も大きい。生産減少額は同年の59・92%にあたる224億7000万円に上った。また肉用牛と鶏卵は共に30%を超える減少率となり、畜産への影響の大きさが浮き彫りになった。コメは6・7%に当たる58億6300万円が減少する。



生産消費の協同の気持ちと力を寄せて養豚を守り地域自給を！

食のグローバル化に負けない  
岩瀬牧場・常総生協の「協同農場」建設を！

常総生協は中期計画で「食のグローバル化に抗して地域自給をすすめる」ことを宣言し、生産との協同を強めることを確認。特に TPP では養豚農家がいちばん打撃を受け激減、外国産豚肉が流入するとされていたことから、豚肉生産を続けてもらおうと岩瀬牧場を支援。協同を模索してきました。生協から次のような生産と消費の協同事業を提案させてもらっています。

(1) 種豚原種から肉豚までの一貫生産を支援

種豚（原種）の自家交配で母豚育成そして肉豚肥育まで一貫した生産を行う。協同事業の開始として「種豚（原種）」を生協が購入して牧場に

(2) 食品残さ循環利用で発酵飼料にし（エコフィード）手頃な価格の豚肉生産の持続

くず小麦や豆腐生産に伴うおからやなど生産者どうしのコラボによる食品残さを結んで岩瀬牧場が培った発酵技術で飼料化。生産コストの低減で手頃な豚肉供給。

(3) 牧場を中核にした有畜自給農場建設

牧場周辺の遊休農地を借り入れて豚糞堆肥づくりで有畜複合の自給農場を建設。畑をローテーションして放牧場としても活用。

## 【重要】木村農園「三浦大根」供給停止（見送り）のお知らせとお詫び

**木村農園の「三浦大根」ですが、今年はお届けを見送り（停止）させていただきます。**

生協が作付けをお願いし、すでに10年にわたって作り続けて頂いている木村農園の「三浦大根」ですが、今年の夏に直播きして双葉が出てきた時期に（暑い日が続き）「シンクイムシ」（芯喰虫）が発生したことから、9月に防除が行われました。

通常ですと、生協に連絡の上いっしょに被害状況や対策を相談してから対応するところ、今年は慌てて防除を行ってしまったとのこと。その際、「モスピラン」（商品名）を使用してしまったことをあとから報告を受けました。

殺虫剤「モスピラン」の主成分はアセタミプリドで、ネオニコチノイド系農薬です。シンクイムシが発生した際に連絡・相談して頂けたら状況を確認したり、もし防除しなかった場合の被害・減収への補償等も含めて相談できたのですが、今回は事後連絡でなおかつネオニコ農薬ゆえ、木村さんと相談の上、お届けを断念することといたしました。

9月の双葉の時期の害虫防除ですでに3ヶ月が経過するものの、ネオニコチノイド系農薬は作物体への浸透移行性があることから、今回は慎重を期して出荷は停止することとさせていただきました。生協の方も生産現地の状況を見切れていなかったこと、充分相互確認ができなかったことから損失を折半することとしました。

今回のことを教訓に、もういちど、生産者との相互連絡をしっかりと、もし虫の発生があった場合はいっしょに考え、農薬を使わず被害が発生した場合に消費者側での保証・支えも含めて協議し、来年は再び安心の「三浦大根」をお届けできるように共に頑張ります。

農薬の問題も「安心でいのちある食べものを」という共通の目標に向かっていっしょに努力する「生産者と消費者の運動」として考えます。農薬を使わずに作物を育てている有機農家もいるわけですので共に学習し、生産者どうしの技術交流や消費者組合員との話し合いを重ねながら無農薬・有機に向かって毎年少しでも前進できるように努力してゆく決意です。

特徴ある在来品種「三浦大根」を木村さんをお願いして作ってもらった最初の年（10年前）は、つくばの組合員さんを中心にみんなで畑に伺い作付けを視察し収穫体験もして、いざ出荷の時は職員が総出で引き抜きに行って木村さんといっしょに作業しました。

この間、こうした交流やお互いの行き来が不足していました。来年は、もういちど大根の播種・発芽から組合員さんにも参加して頂いて定期見学会を計画し、みんなで大根の生長を見守ってゆく体制をとりたいと思います。

業務部長 伊藤

○木村農園での常総生協向けの他の野菜では今回の大根以外ではネオニコチノイド系農薬の使用はないことを確認しています。

木村農園では、他の生協（連合会）にも野菜を出荷していますが（三浦大根は常総生協のみ。余剰を地元直売所・スーパーからの引き合いに提供）、「モスピラン」（アセタミプリド）は他生協では禁止農薬指定となっていなかったことから「常総さんでも大丈夫なんだろう」と判断してしまい、確認をとらないで防除し事後報告となってしまいました。

○現在ネオニコチノイド系農薬（殺虫剤）は7成分（7品種）あります。表面に散布しても植物体に浸透・移行性が強く効果が続くことから、農薬の使用回数を減らして減農薬になると宣伝され、この10年で急激に使用が増えています。

○生協間でネオニコ農薬への考え方が異なっていることも今回の要因でした。農産物を市場調達している大手生協は論外ですが、環境や食の安全に関心の高い生協連合でも有機リン系農薬削減のあまりネオニコ系に流れた経緯もあって、7種のうちの3成分（コメ）ないし1成分（野菜：イミダクロプリド）の禁止措置に留まっています。

常総生協では2010年よりネオニコチノイド系殺虫剤について注意喚起し、つくばで市民公開研究会を開催して生産者と共に学習し、宣伝に欺されないで使用を控えて頂けるようお願いしてきました。特に果樹系は大きな課題です。

○ネオニコチノイド系殺虫剤およびフィプロニルなどの浸透移行性殺虫剤はヒトへの神経毒があると同時に、花粉を虫媒するミツバチや天敵のコマユバチなどの昆虫も殺してしまうことから、地域の食と環境を守る観点から地域ぐるみ・農協ぐるみ・生協間でも協同して取り組まなければならない課題です。同時に、日本でこうした農薬が急激に普及する背景には農業者の減少と高齢化があることから、日本の農業生産・食糧生産を支える生産と消費の関係づくりが何より必要と考えています。